

講社通信

大津宮を偲ぶ歌

万葉集の柿本人麻呂・高市黒人以来、多くの大津宮（志賀の都）にかかわる歌が残されています。平安時代に入ると天智朝がひとつの理想の時代とも思い描かれるようにもなり、いよいよ天智天皇とその時代への思慕が高まりました。

そして志賀の都や志賀の山寺（崇福寺）、京都からの山越えの道は歌枕ともなっており、そのかみを偲ぶ歌が数多く詠まれ、また平安の都にほど近い大津・琵琶湖、なかでも祓えの名所である唐崎や天智天皇勅願の志賀寺は実際に訪れることのできる名所として、公家の信仰とともに行楽の場でもありました。そして平安王朝の始祖とも考えられた天智朝思慕の志は、百人一首の第一番に天智天皇の御製が置かれる端緒にもなりました。

近江の海夕波千鳥汝が鳴けば心もしのいにしへおもほゆ

柿本人麻呂

楽浪の国つ御神のうらさびて荒れたる京 見れば悲しも 高市黒人

波にたぐふ鐘の音こそあはれなれ夕さびしき志賀の山寺

藤原良経

楽浪や志賀の都の花盛り風より先に問はましものを 源実朝

昔誰れ荒れなんのちのかたみとて志賀のみやこに花を植ゑけん

後鳥羽院



近江神宮日供神饌講
新版第二十一号
平成二十七年三月十日

天智天皇をまつる石坐神社・法伝寺

滋賀県には天智天皇の時代に創建されたり、天智天皇の時代にかわりの深い神社がいろいろとあります。



天智天皇・弘文天皇をおまつりする神社のひとつとして、大津市内に石坐神社と、隣接するかわりの深い法伝寺があります。

石坐神社は式内社で、創始は往古に遡り、近江国造・治田連が祖先の彦坐王を膳所の裏山の茶臼山古墳（ひこいます）背後の御霊殿山に祀ったのに始まると考えられています。茶臼山古墳と小茶臼山古墳は彦坐王と弘文天皇の御陵との伝えがあります。

その後天智天皇の八年に早魃があり、神告によって御霊殿山上の磐座に海津見神をまつって雨乞いを行ったとされ、八大龍王宮とも称せられ、雨乞いの神として厚い信仰があります。さらに天智天皇の建立になる一乗院滋賀寺の僧侶が、持統天皇の朱鳥元年に社殿を造営して天智天皇・大友皇子（弘文天皇）・大友皇子の御母伊賀采女宅子媛命を奉齋したと伝えられています。この滋賀寺が天智天皇と弘文天皇の尊牌を安置し、のちに法伝寺と改称したとのことです。



大正九年六月十日時の記念日が設けられて以来、時の記念祭（漏刻祭）が斎行されて

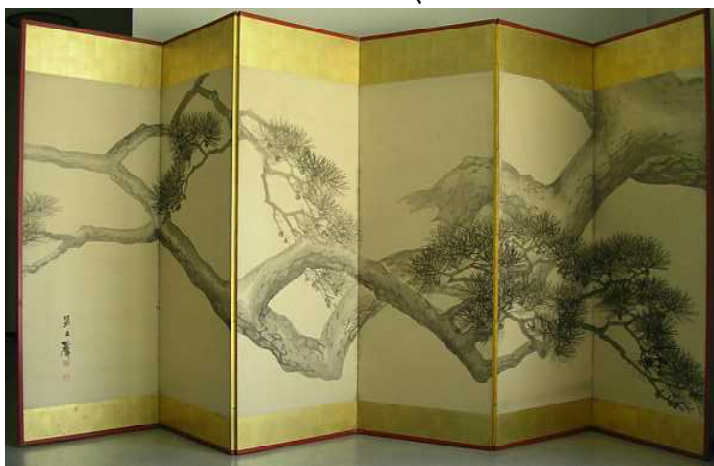
います。御祭神の天智天皇・弘文天皇・伊賀采女宅子媛・彦坐王の木造があり、重要文化財に指定されています。社殿は鎌倉時代の建造で、文永三年の棟札があり、県指定文化財。

塩川文麟の屏風絵「湖南辛崎松図屏風」

すでに終わった企画のことで恐縮ですが、近江神宮には塩川文麟（しおかわ ぶんりん）の屏風絵「湖南辛崎松図屏風」を所蔵し、昨秋宝物館に展示されました。

塩川文麟は幕末から明治初期の四條派の代表的な画家で、他の三名とともに幕末の平安四名家と称されました。伝統的な四條派の技法を受け継ぎながら、明治に入ってから西洋の画風も積極的に取り入れ、構図や彩色法などの型を破って従来の日本画にはなかった表現により、その後の四條派の画風に与えた影響は大きく、日本画界の時代の先覚者ともされています。風景・花鳥画と画域の広さが特徴といわれ、「湖南辛崎松図屏風」は、唐崎の松を描く文麟の水墨画作品です。

勤皇の志も厚く、薩摩の志士らとも交流があり、幕政の批判も行っていました。近江神宮御創建当初、阪急電鉄の創業者で美術品のコレクターとしても知られる小林一三氏から奉納いただきました。



時計館宝物館の屋根葺替え工事

時計館宝物館は昭和三十八年に時計歴史館として開館し、五十年を超えました。平成二十二年に時計館宝物館として新装開館しましたが、その際の工事では屋根の修繕を行わなかった結果、雨漏りが見られるようになり、本年屋根の葺替え工事を行うことになりました。去る二月二十五日に安全祈願祭を行い、七月末までの予定で銅板屋根の葺替えを行います。足場がかなり場所を占有し、資材の置場等でご利用、ご参拝の皆様にはご不便、ご迷惑をおかけするかと思います。ご了承くださいますようお願いいたします。工事中も通常通り開館しています。（祝日以外の月曜日は休館）

春から初夏の祭典・行事

- | | | |
|------------------|---------|------------------|
| 三月十七日 | 午前十一時 | 祈年祭 |
| 四月二十日 | 午前十時 | 例祭 勅使参向 |
| 四月二十六日 | 午後二時 | 近江まつり子供みこし渡御 |
| 五月十七日 | 午前十一時 | 崇福寺鎮魂供養祭（崇福寺跡にて） |
| 六月七日 | 午後〇時三十分 | 流鏝馬神事 |
| 本年から六月第一日曜日に行います | | |
| 六月九日 | 午前十時 | 献茶祭 |
| 六月十日 | 午前十一時 | 漏刻祭 |
| 六月二十八日 | 午前十一時 | 献菓献煎茶祭 |
| 六月三十日 | 午前十一時 | 日供神饌講社大祭 饗宴祭 |
| 六月三十日 | 午後四時 | 大祓式 |

講社通信は近江神宮ホームページでカラーで見られます。

<http://www.oumi-jingu.org/>「日供神饌講」ページ